

# 第11回出生動向基本調査

## 結婚と出産に関する全国調査

### 独身者調査の結果概要

#### ・調査の概要

1. 第11回出生動向基本調査の概要
2. 調査手続と調査票回収状況

#### ・結婚という選択

##### - 若者たちの結婚離れを探る -

1. 結婚の意欲
2. 結婚の利点・独身の利点
3. 異性との交際
4. なぜ結婚しないのか？

#### ・希望の結婚像

##### - どんな結婚を求めているのか -

1. 希望する結婚年齢
2. 希望する結婚形態
3. 結婚相手の条件
4. 求めるライフコース
5. 希望子ども数

#### ・未婚者の生活スタイルと意識

##### - 現代の若者たちの横顔 -

1. 未婚者の生活スタイル
2. 結婚・家族に関する意識

## 国立社会保障・人口問題研究所

担当部 : 人口動向研究部

TEL.(03)3503-1711 内線 4476

〔夜間直通〕TEL.(03)3595-2992

## 調査の概要

### 1. 調査の目的と沿革

国立社会保障・人口問題研究所は1997(平成9)年6月、第11回出生動向基本調査(結婚と出産に関する全国調査)を実施した。この調査は他の公的統計では把握することのできない結婚ならびに夫婦の出生力に関する実態と背景を調査し、関連諸施策ならびに将来人口推計に必要な基礎資料を得ることを目的としている。出生動向基本調査は、戦前の1940(昭和15)年に第1回、ついで戦後の1952(昭和27)年に第2回が行われて以降、5年ごとに「出産力調査」の名称で実施されてきたが、第10回調査(1992年)以降名称を「出生動向基本調査」に変更して今回に至っている。第8回調査(1982年)からは夫婦を対象とする夫婦調査に加えて、独身者を対象とする独身者調査を同時実施しており、したがって今回の調査は独身者調査としては4回目に当たる。本報告はその第11回調査の独身者調査についてのものである。

### 2. 調査手続きと調査票回収状況

本調査は、全国の年齢18歳以上50歳未満の独身者を対象とした標本調査であり、平成9年6月1日現在の事実について調べたものである。調査対象地域は、平成9年「国民生活基礎調査」(厚生省大臣官房統計情報部実施)の調査地区1,048カ所(平成7年国勢調査区から層化無作為抽出)の中から、系統抽出法によって選ばれた500地区である。したがって、そこに居住する18歳以上50歳未満の全ての独身者が本調査の客体である。

調査方法は配票自計、密封回収方式によった。その結果、調査票配布数(調査客体数)12,553票に対して、回収数は10,652票であり、回収率は84.9%であった。ただし、回収票のうち記入状況の悪い1,245票は無効票として集計対象から除外した。したがって、有効票数は9,407票であり、有効回収率は74.9%である。なお、本報告ではそのうち18歳以上35歳未満の未婚男女について集計分析を行った。

表 -2-1 調査票配布数、有効回収票数ならびに率

	調査票数(回収率)
調査客体	12,553
回収票数	10,652 (回収率84.9%)
有効票数	9,407 (有効回収率74.9%)

表 -2-2 男女年齢別未婚者数

年 齢	未婚者数		(参考)第10回調査未婚者数*	
	男 子	女 子	男 子	女 子
18~19歳	621 (15.6%)	606 (16.8%)	845 (20.0%)	878 (24.1%)
20~24歳	1,683 (42.3)	1,754 (48.6)	1,840 (43.7)	1,783 (48.9)
25~29歳	1,149 (28.9)	908 (25.1)	1,036 (24.6)	739 (20.3)
30~34歳	529 (13.3)	344 (9.5)	494 (11.7)	247 (6.8)
総 数	3,982 (100.0%)	3,612 (100.0%)	4,215 (100.0%)	3,647 (100.0%)

\* : 国勢調査地区数は490地区

## 結婚という選択 - 若者たちの結婚離れを探る -

### 1. 結婚の意欲

#### 1) 結婚する意思をもつ未婚者、90%を下回る

いずれは結婚しようとする未婚者が大部分であることに変わりはないが、結婚意思をもつ者の割合は近年わずかながら減少する傾向にある。今回は男女とも初めて90%を下回った。とくに男子での減少が目につく。ただし、一生涯独身で過ごすことを志向する者は男子でわずかに増えたものの、従来の5%ラインから急増したというわけではなく、実際は態度不詳の者の漸増が結婚志向者の減少に影響している。

表 -1-1 各回調査による未婚者の生涯の結婚意思

生涯の結婚について	男 子				女 子			
	第8回 (1982年)	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第8回 (1982年)	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)
いずれ結婚するつもり	95.9 %	91.8	90.0	85.9	94.2 %	92.9	90.2	89.1
一生結婚するつもりはない	2.3	4.5	4.9	6.3	4.1	4.6	5.2	4.9
不 詳	1.8	3.7	5.1	7.8	1.7	2.5	4.6	6.0
総 数 (標 本 数)	100.0 % (2,732)	100.0 (3,299)	100.0 (4,215)	100.0 (3,982)	100.0 % (2,110)	100.0 (2,605)	100.0 (3,647)	100.0 (3,612)

設問「自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちのどちらですか。」

1. いずれ結婚するつもり、2. 一生結婚するつもりはない

#### 2) 結婚年齢へのこだわりは減り、理想の相手を待つ者が増えている

結婚する意思のある未婚者のうち、ある程度の年齢までには結婚したいと考える者は減少傾向にあり、これに対して理想の相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわないと考える者が増えている。10年前の調査では男女とも前者が後者を上回っていたが、近年これらの割合は逆転した。こうした傾向は、近年未婚者の結婚に対する「適齢期」意識がしだいに薄らぎ、代わって結婚の中身、とりわけ結婚相手に対するこだわりが強くなっていることを示すとみられる。

表 -1-2 各回調査による結婚意思をもつ未婚者の結婚に対する考え方

結婚に対する考え方	男 子			女 子		
	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)
ある程度の年齢までには結婚するつもり	60.4 %	52.8	48.6	54.1 %	49.2	42.9
理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない	37.5	45.5	50.1	44.5	49.6	56.1
不 詳	2.1	1.6	1.3	1.3	1.3	1.1
総 数 (標 本 数)	100.0 % (3,027)	100.0 (3,795)	100.0 (3,420)	100.0 % (2,420)	100.0 (3,291)	100.0 (3,218)

設問「自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちのどちらですか。」

1. ある程度の年齢までには結婚するつもり

2. 理想的な結婚相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない

注：対象は「いずれ結婚する」と答えた未婚者。

### 3) 「まだ結婚するつもりはない」、25歳以上の未婚者で増加傾向

いずれ結婚する意思のある未婚者の中で、当面の結婚に消極的な者(「まだ結婚するつもりはない」)は、当然年齢とともに減少するが、20歳代後半に至っても男子42.7%、女子26.9%はいぜん消極的なままである。年齢ごとに比較すると、近年男女とも25歳以上の年齢層でこの割合が増加している。すなわち、この年齢層では当面の結婚に対する意欲が減退しているとみられる。25歳未満では減少ないし横ばいである。

表 -1-3 各回調査による年齢別にみた「まだ結婚するつもりはない」未婚者の割合

年 齢	男 子			女 子		
	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)
18 ~ 19 歳	86.5 %	85.7	80.6	73.5 %	76.4	76.8
20 ~ 24 歳	71.6	72.1	67.4	52.7	55.7	53.9
25 ~ 29 歳	31.5	37.5	42.7	16.6	19.7	26.9
30 ~ 34 歳	14.5	12.8	21.5	13.2	14.0	18.4
総数(18~34歳)	57.3 %	59.3	56.5	49.5 %	50.7	47.7

設問「それでは今から一年以内の結婚に関してはどのようにお考えですか。」

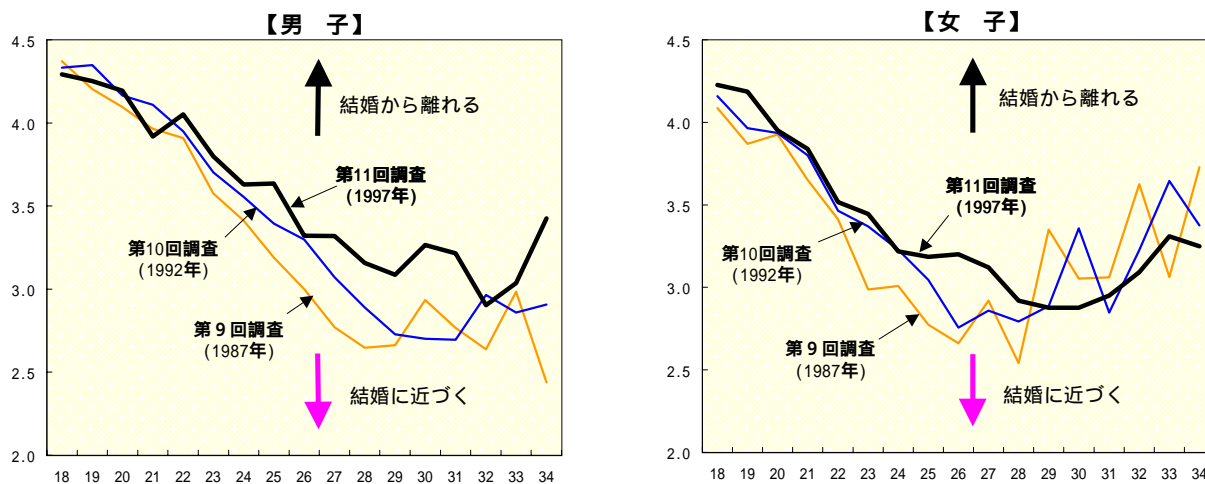
1. 一年以内に結婚したい
2. 理想的な相手が見つれば結婚してもよい
3. まだ結婚するつもりはない

注：対象は「いずれ結婚するつもり」と答えた未婚者。標本総数は表 -1-2 に同じ。

### 4) しだいに結婚から離れる未婚者の意識

結婚の意思をたずねた問の回答を複合して、意識の上での結婚までの距離を数値化して比較したところ、最近10年間で未婚者の意識はしだいに結婚から離れる傾向にあることがわかった。この傾向は男女とも概ね同じで、どの年齢でもみられる。ただし、女子30歳前後から以降では、むしろ従来より結婚に近づく。これは近年の晩婚化傾向によって、結婚意思をもちながらこの年齢層まで未婚に留まる女子が増えているためとみられる。

図 -1-1 調査別にみた未婚者の結婚からの意識距離の年齢推移



注：結婚からの意識距離については「用語の解説」参照。

## 2. 結婚の利点・独身の利点

### 1) 「結婚には利点ない」とする未婚者、25歳以上で増加傾向

未婚男女に現在結婚することに利点があるかどうかたずねたところ、利点ありと答えたのは男子64.6%、女子69.9%であった(表 -2-1)。男子では10年前に比べて4.5ポイント減少しており、0.9ポイント減少の女子に比べ落ち幅が大きい。とくに25歳以降の年齢層で、結婚に利点なしとする者が男女とも増加している(表 -2-2、図 -2-1)。この年齢パターンは結婚意欲の低下とも一致している(図 -1-1参照)。一方、独身生活の利点については、今回利点ありと答えたのは男子82.7%、女子88.5%で、従来同様結婚の利点よりかなり多く、結婚の魅力よりは独身生活の魅力の方が強く意識されている結果となっている。

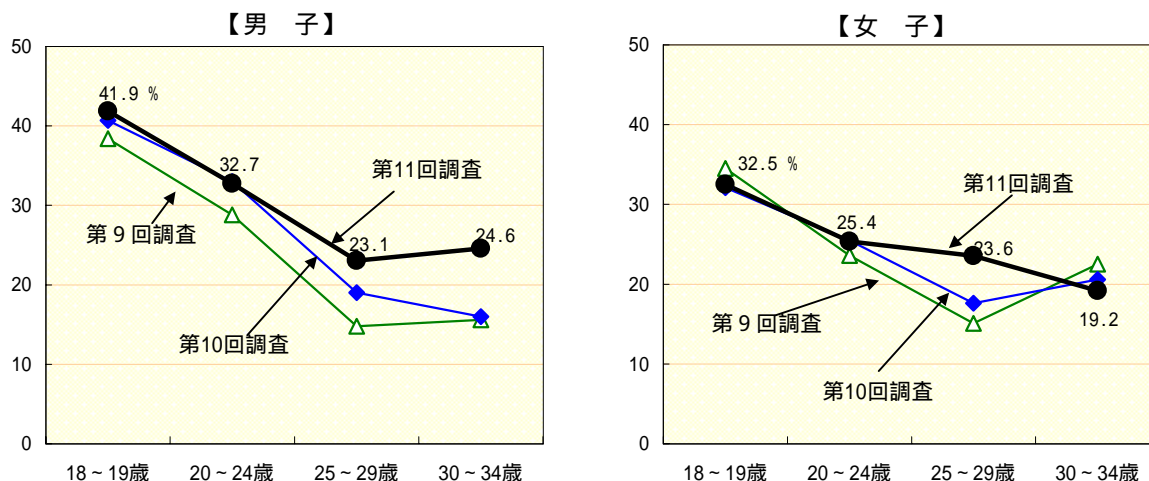
表 -2-1 各回調査による未婚者の結婚の利点・独身の利点に対する考え

		男 子			女 子		
		第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)
今のあなたにとって 結婚することは	利点があると思う	69.1 %	66.7	64.6	70.8 %	71.4	69.9
	利点はないと思う	25.4	29.1	30.3	24.7	25.2	25.5
	不詳	5.5	4.2	5.1	4.5	3.4	4.6
総 数		100.0 %	100.0	100.0	100.0 %	100.0	100.0
今のあなたにとって 独身生活は	利点があると思う	83.0 %	83.6	82.7	89.7 %	89.0	88.5
	利点はないと思う	10.7	11.2	11.6	5.4	7.4	7.2
	不詳	6.3	5.2	5.7	4.9	3.6	4.3
総 数		100.0 %	100.0	100.0	100.0 %	100.0	100.0
(標 本 数)		(3,299)	(4,215)	(3,982)	(2,605)	(3,647)	(3,612)

表 -2-2 年齢別にみた今の自分にとって「結婚することは利点がない」と考える未婚者

年 齢	男 子			女 子		
	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)
18 ~ 19 歳	38.4 %	40.7	41.9	34.5 %	32.1	32.5
20 ~ 24 歳	28.8	33.0	32.7	23.6	25.5	25.4
25 ~ 29 歳	14.8	19.0	23.1	15.1	17.6	23.6
30 ~ 34 歳	15.6	16.0	24.6	22.5	20.6	19.2
総数(18~34歳)	25.4 %	29.1	30.3	24.7 %	25.2	25.5

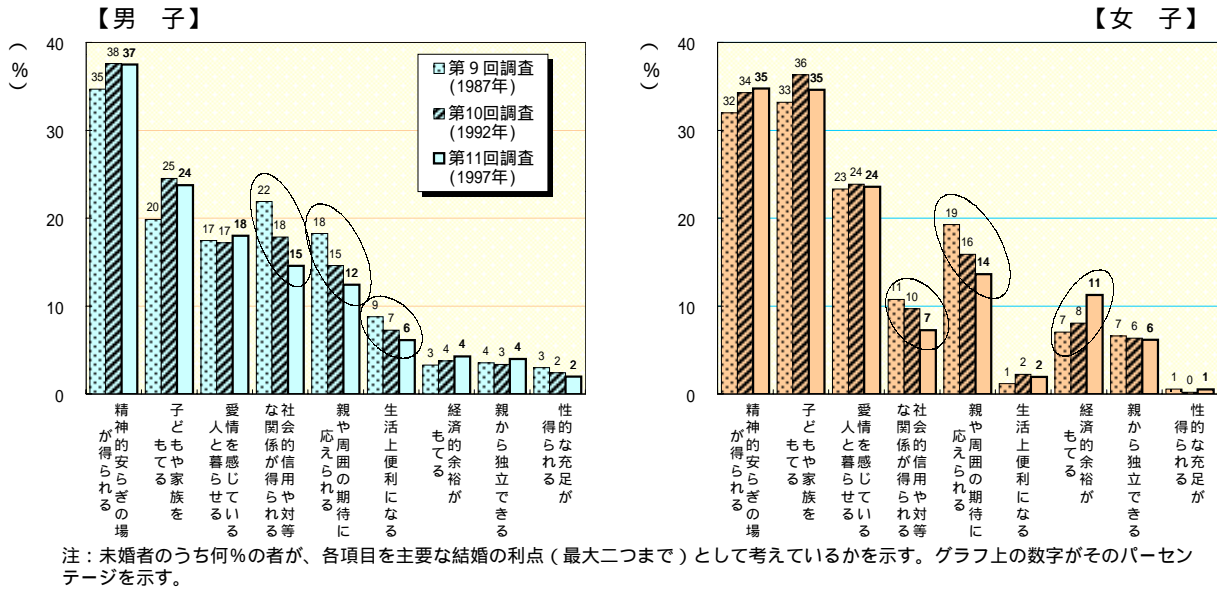
図 -2-1 年齢別にみた今の自分にとって「結婚することは利点がない」と考える未婚者



2) 結婚の利点は心理面が主、「社会的信用」、「親の期待に応える」、「生活の便」はさらに減少

具体的な結婚の利点について項目を選択してもらったところ、男女とも「精神的な安らぎの場が得られる」が最も多く、次いで「自分の子どもや家族をもてる」「愛情を感じている人と暮らせる」が続き、個人の心理面に関する事柄が第3位までを占めている。一方10年前に男子では2位であった「社会的信用を得たり、周囲と対等になれる」や「親を安心させたり周囲の期待にこたえられる」という社会生活上の利点は、男女とも調査ごとにポイントを下落している。また、男子では「生活上便利になる」も減少している。結局、男女とも未婚者が結婚に強く求めるのは安らぎ、愛情といった個人的、内面的な側面であり、社会的信用や親の期待に応えるといった社会的側面や実生活上の利点など結婚の外的機能を求める者は急速に減少している。ただ、今回女子で「経済的余裕」を結婚の利点とする者がやや増えた。

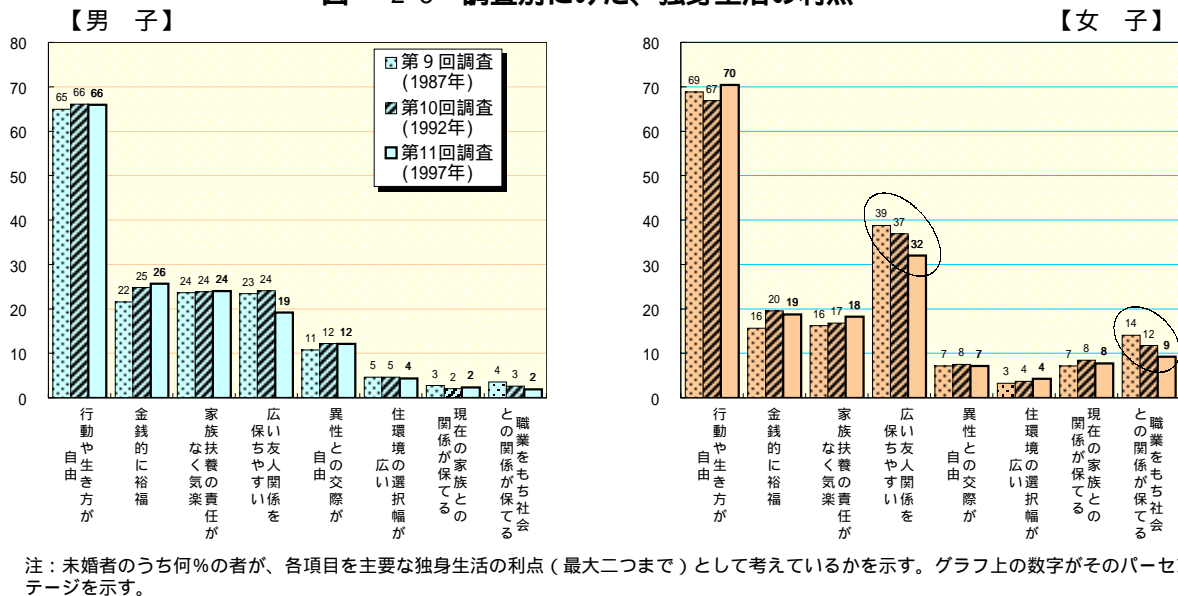
図 -2-2 調査別にみた、結婚することの利点



3) 独身生活の最大の魅力は「行動や生き方が自由」であること

未婚者に現在の独身生活の利点について選択してもらったところ、男女とも圧倒的に「行動や生き方が自由」を挙げる者が多かった。それ以外では「金銭的に裕福」「家族を養う責任がなく、気楽」「友人などとの広い人間関係が保ちやすい」などが比較的多い。すなわち、未婚者は結婚すると行動や生き方、友人関係などが束縛され、家族扶養の精神的負担が増えると考えていることがわかる。なお、独身の利点に関する考えは時系列的な変化が少ないが、女子で広い友人関係を利点とする者、および「職業をもち、社会とのつながりが保てる」ことを利点とする者が漸減している。

図 -2-3 調査別にみた、独身生活の利点



### 3. 異性との交際

#### 1) 異性と交際している未婚者やや減少

異性との交際状況を調べた結果によると、男女とも「交際相手(婚約者、恋人、友人として)をもつ」と回答した者がやや減少した(男子45.5% 41.5%、女子55.0% 51.3%)。逆に「異性の交際相手をもたない」と回答した男子は49.8%でほぼ半数、女子では41.9%であり、ともに3ポイントほど増えた(表 -3-1、図 -3-1)。交際相手の内訳をみると、「婚約者がいる」「恋人がいる」には5年前から変化はなく、「友人として交際している」の減少が目立っている。

こうした変化を年齢別にみると(表 -3-2)、男女とも若い年齢層ほど「異性の交際相手をもたない」者が増加している。

表 -3-1 調査別にみた未婚者の異性との交際

異性との交際	男 子			女 子		
	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)
婚約者がいる	2.9 %	3.2	2.9	4.6 %	3.9	3.8
恋人として交際している異性がいる	19.4	23.1	23.3	26.2	31.6	31.6
友人として交際している異性がいる	23.6	19.2	15.3	25.4	19.5	15.9
交際している異性はいない	48.6	47.3	49.8	39.5	38.9	41.9
不 詳	5.5	7.2	8.7	4.3	6.3	6.8
総 数	100.0 % (3,299)	100.0 (4,215)	100.0 (3,982)	100.0 % (2,605)	100.0 (3,647)	100.0 (3,612)

図 -3-1 調査別にみた未婚者の異性との交際

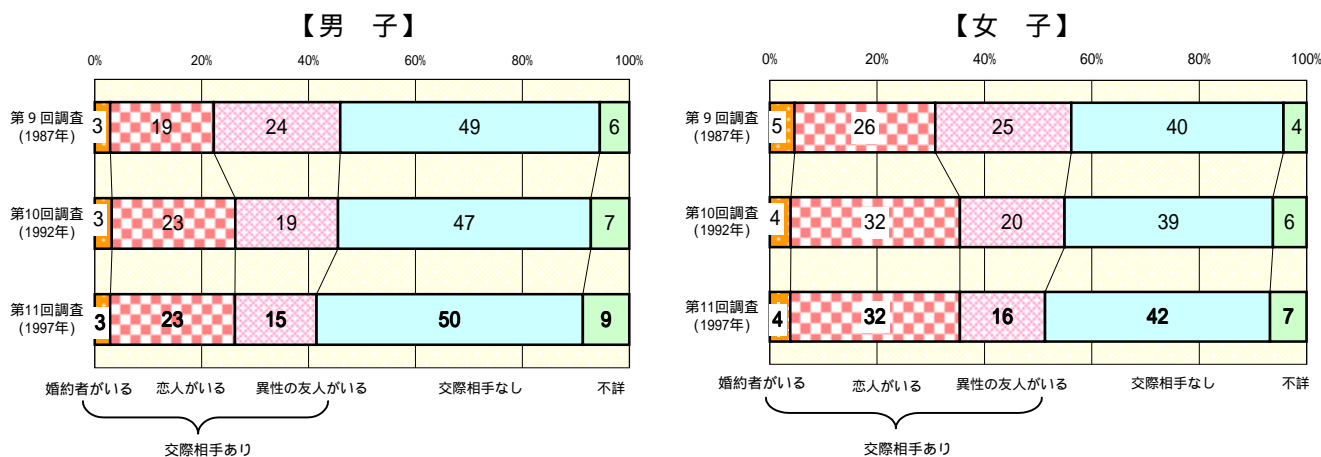


表 -3-2 各回調査による年齢別にみた「異性の交際相手をもたない」未婚者の割合

年 齢	男 子			女 子		
	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)
18～19歳	55.9 %	55.6	60.5	47.1 %	47.6	55.3
20～24歳	42.1	43.8	46.9	35.3	33.1	37.0
25～29歳	48.9	43.2	47.2	38.7	37.3	39.1
30～34歳	60.6	54.9	52.2	45.6	53.8	50.9
総 数	48.6 %	47.3	49.8	39.5 %	38.9	41.9

注：標本総数は表 -3-1に同じ。

## 2) 恋人との結婚を望む者は6割半ば

異性と交際している未婚者に対して、その交際相手との結婚希望をたずねている。恋人としての交際では男子66.7%、女子63.2%が相手との結婚を希望している。これに対して、友人として交際している場合には、相手との結婚を望む者は男女とも15%前後である。

表 -3-3 各回調査による交際相手との結婚を希望する者の割合

	恋人として交際している異性について				友人として交際している異性について			
	総数	結婚したい	とくに考えていない	不詳	総数	結婚したい	とくに考えていない	不詳
<b>男子</b>								
第10回(1992年)	100 % (973)	65.3 %	33.4	1.3	100 % (809)	12.2 %	85.3	2.5
第11回(1997年)	100 (926)	66.7	31.3	1.9	100 (610)	14.3	82.0	3.8
<b>女子</b>								
第10回(1992年)	100 % (1,151)	65.9 %	33.0	1.1	100 % (710)	11.3 %	85.5	3.2
第11回(1997年)	100 (1,142)	63.2	35.3	1.5	100 (574)	15.3	81.4	3.3

注：それぞれの異性の交際相手をもつ者の中で、その交際相手との結婚を希望する者のパーセンテージを示す。対象は異性の交際相手がいると回答した者(「婚約者がいる」を除く)。

## 3) 交際のきっかけは日常の場 - 職場・学校・友人

出会いのきっかけは、第8回調査(1982年)以降ほとんど変化がなく、「職場や仕事で」「学校で」「友人・兄弟姉妹を通じて」が7割弱を占めている。

表 -3-4 調査別にみた交際相手と知り合ったきっかけ

### 【男子】

	総数	職場や仕事で	学校で	友人・きょうだいを通じて	街なかや旅先で	サークル・クラブ・習いごとで	アルバイトで	幼なじみ・隣人	見合い・結婚相談所で	その他・不詳
第8回(1982年)	100 % (1,604)	22.0 %	30.9	18.2	13.2	13.2	*	5.9	2.3	3.8
第9回(1987年)	100 (1,514)	29.7	21.9	16.1	8.9	9.9	*	2.5	1.5	9.5
第10回(1992年)	100 (1,918)	26.6	22.9	16.9	5.8	9.0	7.9	2.2	1.5	7.1
第11回(1997年)	100 (1,651)	23.0	22.1	21.4	7.7	9.2	5.8	2.8	1.2	6.8

### 【女子】

	総数	職場や仕事で	学校で	友人・きょうだいを通じて	街なかや旅先で	サークル・クラブ・習いごとで	アルバイトで	幼なじみ・隣人	見合い・結婚相談所で	その他・不詳
第8回(1982年)	100 % (1,386)	32.5 %	29.1	16.8	9.3	12.7	*	5.7	2.7	4.2
第9回(1987年)	100 (1,465)	30.7	21.3	19.8	6.9	9.1	*	2.2	2.3	7.7
第10回(1992年)	100 (2,002)	29.6	19.6	18.9	5.0	8.4	8.4	2.4	1.5	6.1
第11回(1997年)	100 (1,854)	28.6	21.0	20.2	6.5	7.8	7.3	1.9	1.3	5.3

注：第8、9回調査では「アルバイト」は選択肢に含まれていない。また、第8回調査では複数の交際相手についての回答を許しているため合計100%にならない。各回調査とも、対象は「異性の交際相手がいる」と回答した者。

### (参考表：夫婦調査)

	総数	職場や仕事で	学校で	友人・きょうだいを通じて	街なかや旅先で	サークル・クラブ・習いごとで	アルバイトで	幼なじみ・隣人	見合い・結婚相談所で	その他・不詳
第11回(1997年)	100 % (1,296)	33.6 %	10.4	27.1	5.2	4.9	4.6	1.5	9.6	3.0

注：調査時点より過去5年間に結婚した夫婦について。



#### 4) 同棲経験者は未婚者の5%未満

未婚者における異性関係を多方面から把握するため、同棲の経験および性行動について調べている。現在または過去に同棲した経験があると回答した者は、男子4.8%、女子4.6%でともに5%に満たない。ただし前2回の調査結果と比べると、わずかながら増加の傾向が認められる。年齢別にみると同棲経験者の割合は、男子は25～29歳(7.1%)、女子は30～34歳(7.6%)で最も高かった。近年欧米では若者の間で同棲が一般化しており、このことが結婚の動向に大きな影響を与えているといわれるが、わが国の場合にはこれは当てはまらないようである。

表 -3-5 調査別にみた未婚者の同棲経験割合

年 齢	男 子			女 子		
	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)
18～19歳	1.2 %	0.9	0.6	1.9 %	1.3	2.6
20～24歳	3.5	4.2	4.5	2.7	3.1	4.4
25～29歳	3.3	6.7	7.1	4.1	4.5	5.3
30～34歳	5.0	7.1	6.0	4.4	6.1	7.6
総 数	3.2 % (3,299)	4.5 (4,215)	4.8 (3,982)	2.8 % (2,605)	3.1 (3,647)	4.6 (3,612)

設問「あなたはこれまでに同棲の経験(特定の異性と結婚の届け出なしで一緒に生活をしたこと)がありますか。」

1. ない、2. 以前はあるが現在はしていない、3. 現在している

注：表中の数字は2. または3. と回答したものの合計のパーセンテージ。

#### 5) 未婚者の性交経験率さらに高まる

性交経験については男子未婚者の6割(60.1%)、女子では5割(50.5%)が経験があると答えた。前2回の調査結果と比べると、性交経験をもつ者の割合は一貫して増加している。とりわけ女子における増加が顕著で、10年前と比べて20.3ポイントの増加がみられる(男子では7.1ポイントの増加)。年齢別にみても男子では25歳以上において70%程度で頭打ち傾向がみられるのに対して、女子ではすべての年齢層で経験率の上昇が続いている。

表 -3-6 調査別にみた未婚者の性交経験割合

年 齢	男 子			女 子		
	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)
18～19歳	24.3 %	25.1	31.9	17.4 %	20.7	28.2
20～24歳	52.7	54.8	60.0	31.9	42.0	52.0
25～29歳	66.6	71.3	70.6	40.0	46.7	58.3
30～34歳	68.3	72.3	71.3	38.8	49.8	61.3
総 数	53.0 % (3,299)	54.9 (4,215)	60.1 (3,982)	30.2 % (2,605)	38.3 (3,647)	50.5 (3,612)

設問「あなたはこれまでに異性と性交渉をもったことがありますか。」

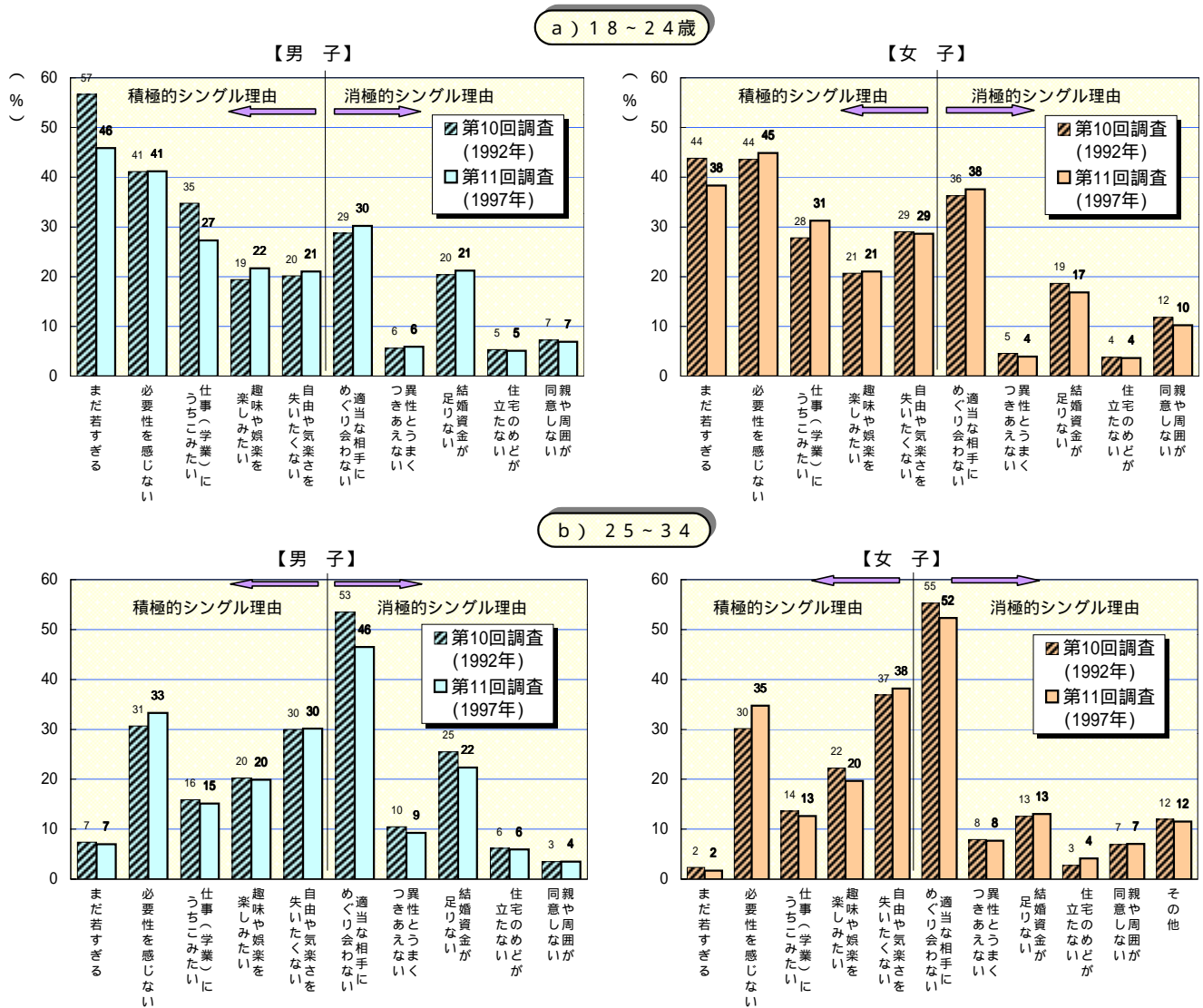
1. ある、2. ない

#### 4. なぜ結婚しないのか？

##### 結婚をする積極的理由の欠如や、25歳を過ぎると適当な相手がいないことが制約

現在独身にとどまっている理由をたずねたところ、若い年齢層では「まだ若すぎる」「必要性を感じない」などの結婚の必然性の欠如や「仕事（学業）」「趣味や娯楽」など競合するものの存在、さらには「自由や気楽さを失いたくない」という総じて結婚をする積極的理由の欠如を意味する項目が多く選ばれている。しかし、25歳以上の年齢層では「適当な相手にまだめぐり合わない」という理由を挙げる者が半数程度いる。ただ、この年齢に至っても「必要性を感じない」「自由や気楽さを失いたくない」を選ぶ者は多く、とくに後者は若い年齢層よりも多く選ばれている。前回調査と比較すると、男女とも若い年齢層で「まだ若すぎる」が減ったほか、25歳以上において「必要性を感じない」が増え、「適当な相手にまだめぐり合わない」が減っており、この年齢層で独身にとどまっている理由が消極的理由（結婚できない）から積極的理由（結婚しない）にわずかながらシフトしていることをうかがわせる。

図 -4-1 年齢階層別に見た独身にとどまっている理由



注：未婚者のうち何%の者が、各項目を主要な独身にとどまっている理由（三つまで）として考えているかを示す。グラフ上の数字がそのパーセンテージを示す。

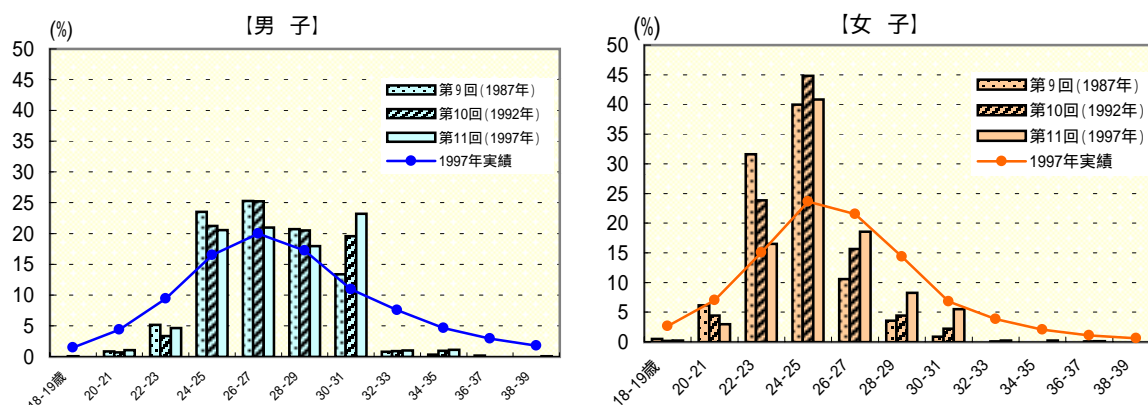
## 希望の結婚像 - どんな結婚を求めているのか -

### 1. 希望する結婚年齢

#### 1) 希望する結婚年齢は、男子30歳が急増、女子は25歳に集中

結婚最盛期に入る前の未婚者(男子18～25歳、女子18～22歳)について、希望する結婚年齢をたずねたところ、男子30歳、女子25歳を希望する者の割合が他の年齢に比べて多かった(図-1-1)。過去2回の調査結果と比較すると、男女とも若い年齢での結婚を希望する者が減り、より高い年齢を希望する者が増えており、希望する結婚年齢も「晩婚化」していることがわかる。ただ、男子では30歳、女子では25歳付近に心理的壁が存在するとみられ、この年齢以降に結婚を希望する者は極端に減っている。このことは実際の結婚年齢(1997年)と比較するとより明瞭である。

図 -1-1 希望する結婚年齢の分布



注：希望結婚年齢は、結婚最盛期に入る前の年齢(男子18～25歳、女子18～22歳)の未婚者が対象。  
1997年実績値(折れ線グラフ)は、厚生省統計情報部『人口動態統計』より(平均初婚年齢は男子28.5歳、女子26.6歳)。

#### 2) 意識のうえでも晩婚化が進行

未婚者の平均希望結婚年齢を現在の年齢別に過去2回の調査と比較すると、男子18～19歳を除いたすべての年齢層で希望結婚年齢が上昇しており、ここでも未婚者の意識が「晩婚化」していることが裏付けられる。

表 -1-1 調査別にみた年齢階級別、希望する結婚年齢

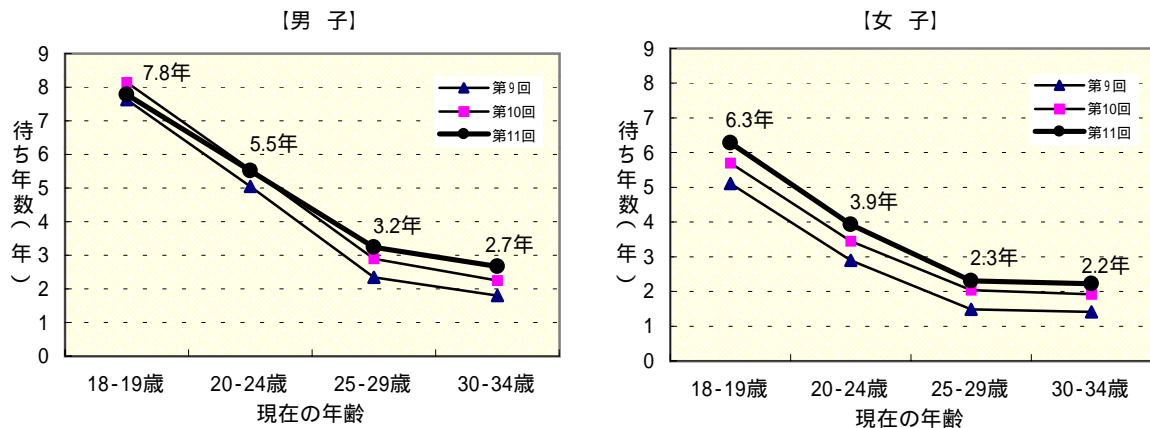
現在年齢	男子			女子		
	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)
18～19歳	26.2歳	26.7	26.3	23.6歳	24.2	24.8
20～24歳	26.9	27.3	27.5	24.7	25.2	25.8
25～29歳	29.0	29.6	29.9	27.8	28.5	28.7
30～34歳	33.5	33.7	34.2	32.6	33.3	33.5
総数	27.9歳	28.4	28.8	25.1歳	26.0	26.9

注：対象は「いずれ結婚する」と答えた未婚者。

### 3) 希望する結婚年齢までの待ち年数は男女とも延長傾向

希望する結婚年齢から現在の年齢を引いた結婚までの待ち年数は年齢の高い未婚者ほど短いが、男女とも25～29歳以降はほとんど変化がなくなる。過去の調査結果と比較すると、男子若年齢層を除いて調査ごとに結婚までの待ち年数は長くなっており、ここでも未婚者の意識が結婚から遠ざかっていることが観察される。

図 -1-2 希望する結婚年齢までの待ち年数



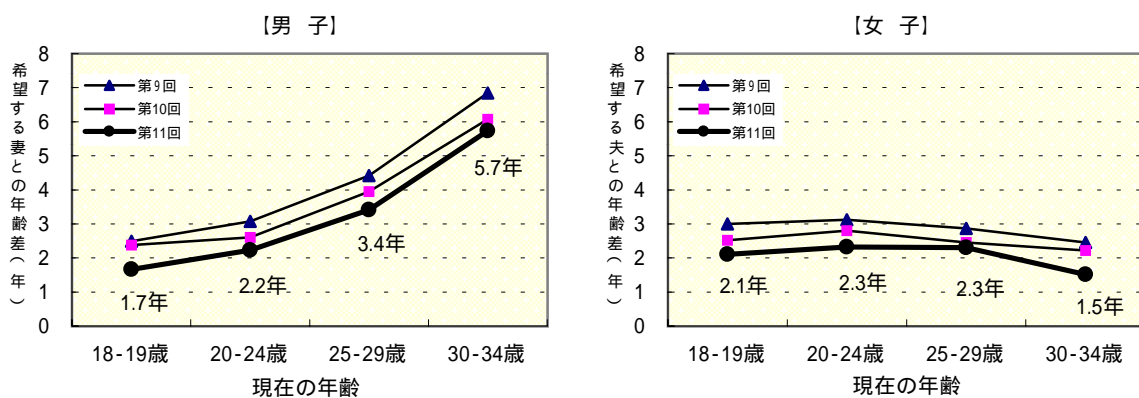
注：希望する結婚年齢までの待ち年数とは、対象者が希望する結婚年齢から現在の年齢を引いた年数。  
図中の数字は第11回調査の結果。

### 4) 男子は“適齢期”の女子を、女子は2、3歳年上の男子を希望

未婚者が希望する結婚相手との年齢差は、男子の場合一定の年齢層の女性を結婚相手として希望する結果、本人の年齢が高くなるにしたがって大きくなっている。これに対して女子では年齢による違いがほとんどみられず、平均で2～3年年上の男性を希望している。

過去の調査と比較すると、男女とも調査ごとに希望する年齢差が縮小してきており、どちらも自分と近い年齢の相手との結婚を望む傾向が強まっていると考えられる。このことは、夫婦調査において近年既婚者の実際の年齢差が縮小していることとも一致する。

図 -1-3 希望する結婚相手との年齢差



注：希望する結婚相手との年齢差は、対象者が希望する本人の結婚年齢と希望する相手の年齢の差(夫－妻)。  
図中の数字は第11回調査の結果。

(参考値)各回夫婦調査の結果による夫妻の年齢差は、それぞれ第9回調査(1987年) 2.9歳、第10回調査(1992年) 2.6歳、第11回調査(1997年) 2.3歳(調査時点より過去5年間に結婚した夫婦について)。

## 2. 希望する結婚形態

### 「恋愛結婚」志向さらに強まる

未婚者に「恋愛結婚をしたい」か「見合い結婚をしたい」かについてたずねたところ、「恋愛結婚」と答えた者は、男子66.8%、女子73.4%であった。過去2回の調査結果と比較すると、男女ともに恋愛結婚志向が強まっていることがわかる。また、各回調査ともすべての年齢層で女子のほうが男子よりも恋愛志向が強い。年齢別にみると若いほど恋愛志向が強く、男女とも年齢の上昇とともに急速に弱まっている。しかし、近年高い年齢層での恋愛志向の強まりが顕著である。なお、夫婦調査から明らかになる実際の恋愛結婚の割合は未婚者の恋愛結婚希望の割合よりも高い。

交際している異性の有無によって比較すると、当然ながら男女とも親密な交際相手がいる者ほど恋愛結婚を希望する割合は高くなっている(図 -2-1)。

表 -2-1 年齢別にみた恋愛結婚を希望する未婚者

	男子			女子		
	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)
18～19歳	68.0 %	77.8	75.3	72.0 %	80.4	83.8
20～24歳	62.7	72.0	73.0	67.4	74.2	77.7
25～29歳	45.0	57.1	62.6	46.6	60.5	66.8
30～34歳	28.3	36.3	44.9	34.7	39.1	49.8
総 数	55.1 %	65.3	66.8	63.3 %	70.7	73.4

設問「あなたはどのような形の結婚を望んでいますか。」

1.恋愛結婚をしたい、2.見合い結婚をしたい、3.どちらでもかまわない。

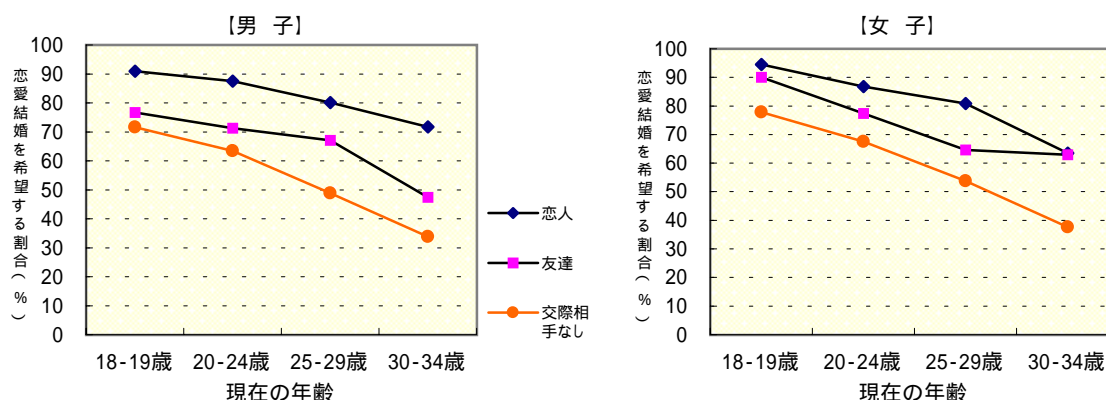
注：対象は「いずれ結婚する」と答えた未婚者。第11回調査で「見合い結婚をしたい」、「どちらでもかまわない」と答えた者の割合は、男子でそれぞれ0.6%、31.3%、女子で0.5%、25.1%。

(参考表：夫婦調査)

	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)
「恋愛結婚」の割合	74.1%	82.8	87.3

注：調査時点より過去5年間に結婚した夫婦について。

図 -2-1 異性の交際相手の有無別にみた恋愛結婚を希望する割合



### 3. 結婚相手の条件

#### 男女とも「人柄」第一、第二は女子で「経済力」、男子で「容姿」

結婚相手を考えるときの条件として表 -3-1に挙げた7項目のうち、重視するまたは考慮すると答えた者が最も多いのは男女とも人柄で、ついで男子は相手の容姿、女子は経済力となっている。また、男女とも相手の学歴を重視または考慮すると答えた者は他に比べて少なかった。男女で比較すると、女子の場合、容姿を除いた他のすべての項目において男子より重視の度合いが高い。

前回調査の結果と比較しうる学歴、職業、経済力、人柄、容姿の5項目についてみると、男女ともに、相手の学歴について重視または考慮する割合が減っている他は、大きな変化はみられない。

学歴別にみると、男女ともほとんどの場合、高学歴のものほど相手の条件を重視または考慮する割合が高くなっている(図 -3-1)。

表 -3-1 結婚相手の条件：各項目を考慮・重視する未婚者の割合

結婚相手としての考慮項目	第11回調査（1997年）						10回調査
	総数	[小計] 重視+考慮		あまり関係ない	不詳	[小計] 重視+考慮	
		重視する	考慮する				
学 歴	100%	23.5%	2.2	21.3	74.3	2.2	29.8%
職 業	100	35.8	3.0	32.8	61.8	2.4	39.5
経済力	100	30.8	2.8	28.0	66.8	2.5	26.7
人 柄	100	95.2	82.9	12.3	2.6	2.2	94.1
容 姿	100	73.9	19.6	54.3	23.3	2.7	79.6
共通の趣味	100	70.5	22.0	48.5	27.3	2.3	-
親との同居	100	58.9	15.5	43.4	38.8	2.3	-

結婚相手としての考慮項目	第11回調査（1997年）						10回調査
	総数	[小計] 重視+考慮		あまり関係ない	不詳	[小計] 重視+考慮	
		重視する	考慮する				
学 歴	100%	49.7%	7.7	42.0	49.2	1.1	54.6%
職 業	100	77.9	21.8	56.1	20.9	1.3	78.0
経済力	100	90.9	33.5	57.4	8.0	1.1	88.7
人 柄	100	97.8	92.2	5.6	1.0	1.1	97.3
容 姿	100	67.3	12.8	54.5	31.4	1.3	67.7
共通の趣味	100	78.9	30.4	48.5	19.9	1.2	-
親との同居	100	78.9	34.0	44.9	19.8	1.4	-

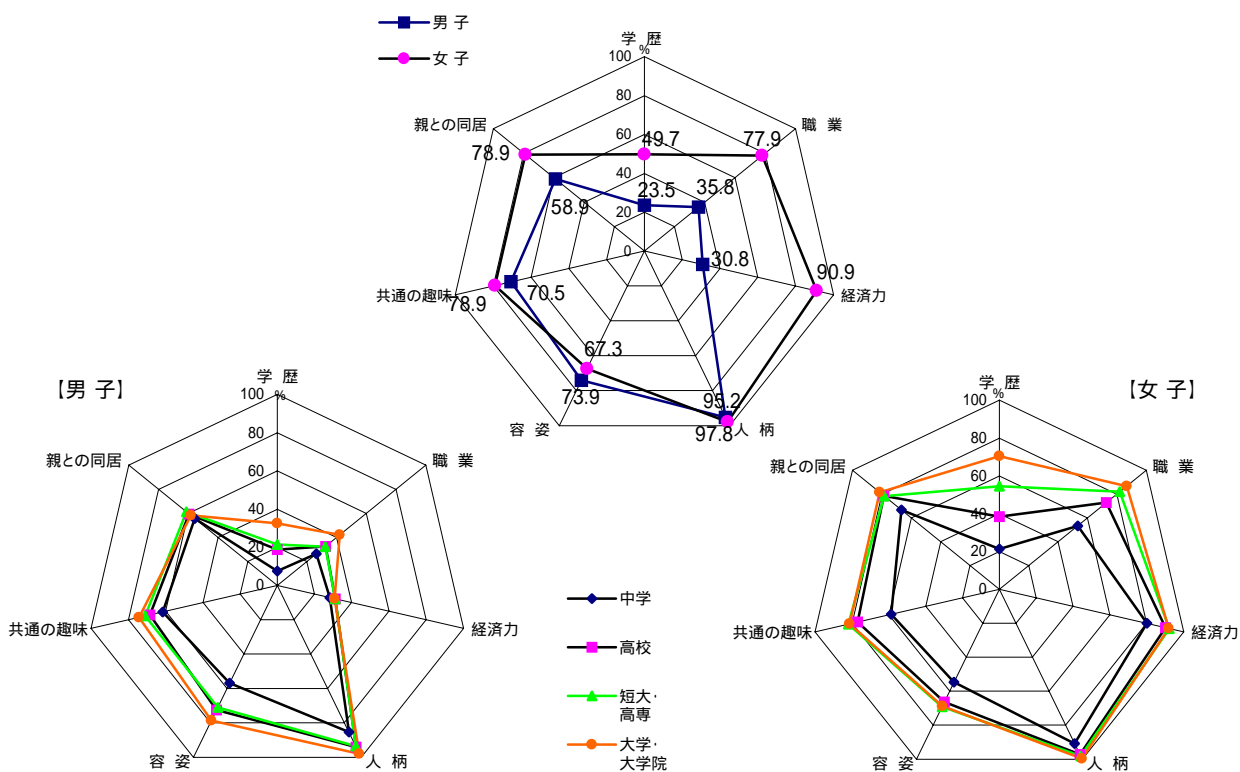
設問「あなたは結婚相手を決めるとき、次のことについてどの程度重視しますか。

1.重視する、2.考慮する、3.あまり関係ない

「親との同居」は、男子の場合「自分の親との同居」、女子の場合「相手の親との同居」について。

注：対象は各調査とも、18歳から34歳の「いずれ結婚する」と答えた未婚者。対象者総数は、男子3420人、女子3218人。

図 -3-1 結婚相手の条件：考慮・重視する割合



## 4. 求めるライフコース

### 1) 専業主婦志望から仕事と家庭の両立へ - 未婚女子の理想とするライフコースに大きな変化

未婚女子が理想と考えるライフコースは、8割以上が結婚して子どもを持つタイプのコースで、「非婚就業」や「DINKS(結婚して子どもを持たない)」を理想とするものは合わせても1割弱と少数派である。

結婚後の就業と出産の組み合わせでは子育て後の「再就職」を理想とする者が最も多く34.3%、次いで仕事と子育ての「両立」(27.2%)、仕事を辞める「専業主婦」(20.6%)の順になっている。過去の調査と比較すると、今回「専業主婦」を理想とするものが大幅に減り、代わって「両立」コースが大幅に、また「再就職」コースもわずかに増えた。未婚女子の結婚後における就業意欲の高まりがみてとれる。

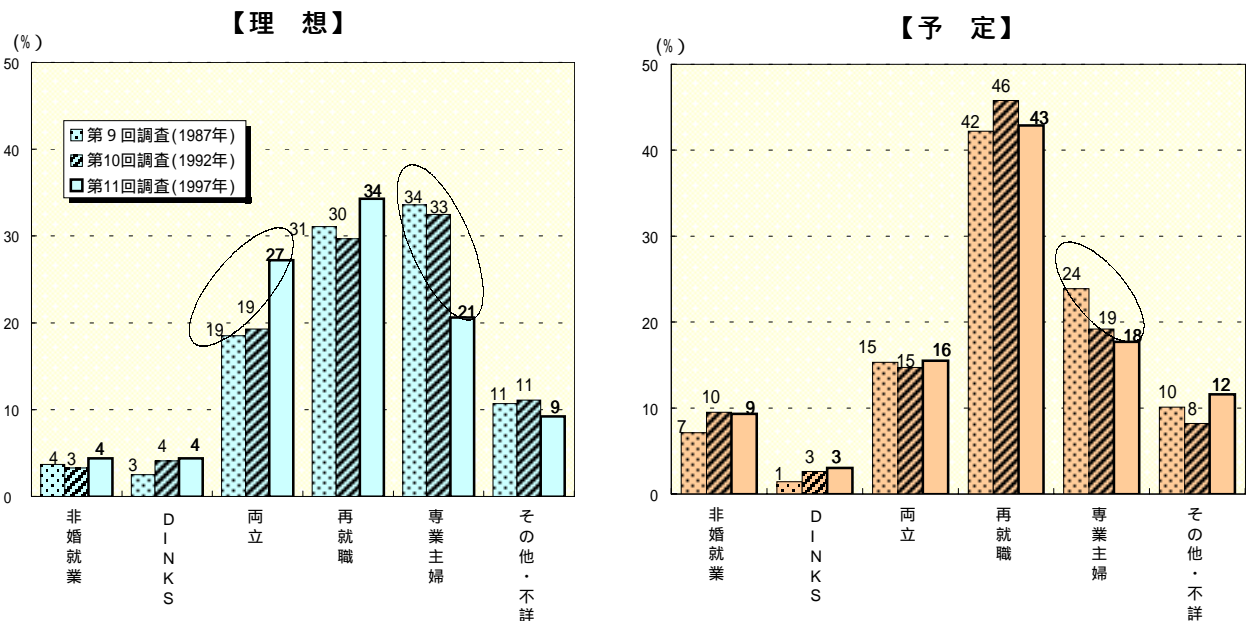
しかし実際になりそうな予定のライフコースをたずねると、理想に比べて「両立」は大幅に少なく、代わって「非婚就業」と「再就職」が多くなっている。この結果は未婚女子が就業と結婚・子育てとの両立を理想としているものの、現実にはどちらか一方を選択する事になるであろうと考えていることを示す。なお、すでに出産・子育てを終えた実際の既婚女性のライフコース(夫婦調査)では、「専業主婦」コースが未婚者の理想、予定よりもかなり多い結果となっている。

表 -4-1 未婚女子の理想と予定のライフコース

	理想のライフコース			予定のライフコース			(参考) 既婚女性の ライフコース
	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第11回 (1997年)
非婚就業コース	3.7 %	3.3	4.4	7.1 %	9.5	9.3	-
DINKSコース	2.5	4.1	4.4	1.4	2.6	3.0	2.3
両立コース	18.5	19.3	27.2	15.3	14.7	15.5	21.9
再就職コース	31.1	29.7	34.3	42.2	45.8	42.9	38.8
専業主婦コース	33.6	32.5	20.6	23.9	19.2	17.7	27.7
その他・不詳	10.7	11.1	9.2	10.1	8.2	11.6	9.2
総数 (標本数)	100.0 % (2,605)	100.0 (3,647)	100.0 (3,612)	100.0 % (2,605)	100.0 (3,647)	100.0 (3,612)	100.0 (7,354)

注：既婚女性のライフコースは、第11回出生動向調査(夫婦調査)、結婚持続期間15～19年の妻に関する結果。  
各ライフコースについては「用語の解説」を参照。

図 -4-1 調査別にみた未婚女子の理想と予定のライフコース



2) 理想と予定が一致しない「両立コース」・「専業主婦コース」

理想とするライフコースがどの程度実現すると考えているかを調べたところ、最も一致率が高いのは「再就職」コースであった。ただし、一致率は45.9%と半数に満たない。それ以外では「両立」コース、「専業主婦」コースを理想としている者で、これが実現すると考えているのはそれぞれ27.1%、20.2%に過ぎず、どちらも半数程度は「再就職」コースになると考えている。どうやら「再就職」コースは、就業を重視する者、家事・子育てを重視する者双方にとって妥協的な、それゆえ実現しやすいライフコースと考えられているようである。

表 -4-2 女子の理想と予定のライフコースの違い

理想のライフコース	総数	予定するライフコース					
		非婚就業	DINKSコース	両立コース	再就職コース	専業主婦コース	その他・不詳
非婚就業コース	100 %	36.1 %	15.2	12.0	19.0	12.7	5.1
DINKSコース	100	22.6	15.1	17.0	25.8	12.6	6.9
両立コース	100	8.7	2.6	27.1	46.1	10.7	4.8
再就職コース	100	8.2	2.1	12.2	45.9	26.9	4.8
専業主婦コース	100	5.5	0.4	11.2	58.7	20.2	4.0

注：■ は、理想と予定のライフコースが一致するセル。  
太字で下線のある数字は、各理想のライフコースの中で最も高い割合の予定のライフコースを示す。

3) 「専業主婦」を期待する未婚男子、大きく減少

未婚男子が女子に期待するライフコースは、「再就職」が最も多く、次いで「専業主婦」、「両立」の順となっている。「非婚就業」や子どもを生まない「DINKS」を望むものはほとんどいない。過去の調査と比較するとこの10年間に、「専業主婦」を望む者が大きく減少し、「両立」、「再就職」が増えたが、女子自身の理想のライフコースと比較すると、この男子の期待との間には大きなギャップがあることがわかる。とくに「両立」を理想とする女子が3割程度いるのに対して男子では17.0%にとどまっている。逆に「再就職」を理想とする女子は34.3%であったのに対し男子の期待では43.4%と約9ポイントの差がみられる。一方、女子の予定と男子の期待を比較すると、「非婚就業」を除けば、ほとんどその割合は一致している(図 -4-3)。このことは、女子の現実的なライフコースに関しては、未婚男女がかなり近いイメージをいだいていることを示している。

表 -4-3 調査別にみた男子が女子に期待するライフコース

調査年次	総数	非婚就業コース	DINKSコース	両立コース	再就職コース	専業主婦コース	その他・不詳
第9回(1987年)	100 % (3,299)	0.8 %	0.7	10.5	38.3	37.9	11.9
第10回(1992年)	100 (4,215)	0.6	0.9	10.8	44.2	30.4	13.0
第11回(1997年)	100 (3,982)	1.0	1.5	17.0	43.4	20.7	16.4

図 -4-2 女性に期待するライフコース【男子】

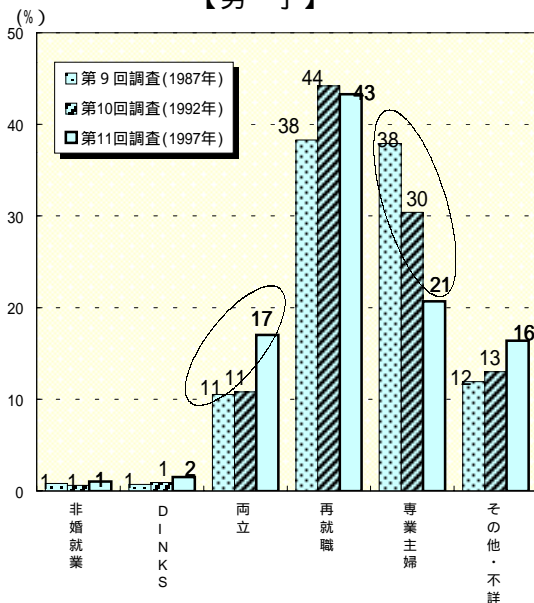
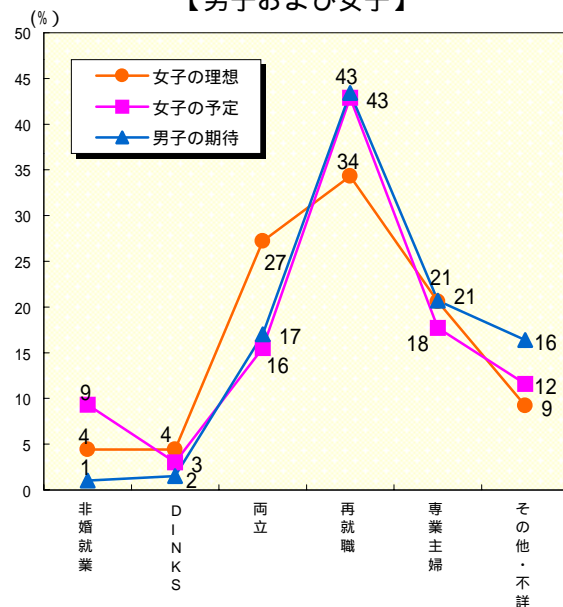


図 -4-3 理想・予定・期待するライフコースの比較【男子および女子】





## 5. 希望子ども数

### 1) 男女ともに平均希望子ども数が減少

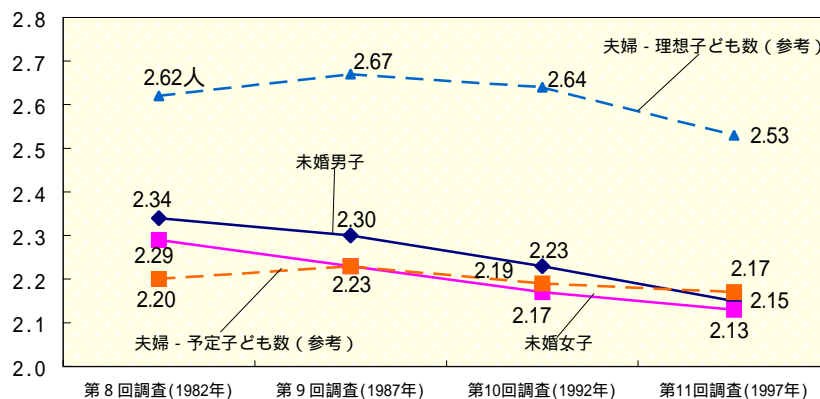
未婚女子の希望子ども数の分布をみると、2人を希望するものが最も多く57.0%、次いで3人が24.0%となっている。平均希望子ども数は2.13人であり、8回調査(1982年)の2.29人以降漸減している。夫婦調査による既婚者の理想子ども数・予定子ども数と比較すると、未婚者の希望子ども数は、既婚者の予定子ども数と同程度のレベルにあることがわかる(図 -5-1)。また最近の未婚者の間での希望子ども数の減少は、既婚者の理想・予定子ども数の動向とも同調していることがわかる。

表 -5-1 女子の年齢別希望子ども数別分布と平均希望子ども数

年齢	総数	希望子ども数							平均希望子ども数			
		子どもはいらない	1人	2人	3人	4人	5人以上	不詳	第11回(1997年)	第10回(1992年)	第9回(1987年)	第8回(1982年)
18～19歳	100 % (531)	3.4 %	4.3	56.5	28.2	2.4	0.8	4.3	2.25人	2.20	2.29	2.35
20～24歳	100 (1,591)	4.6	7.0	57.4	24.5	1.8	1.1	3.6	2.16	2.22	2.26	2.34
25～29歳	100 (791)	5.4	7.0	57.0	24.7	1.5	0.8	3.7	2.13	2.10	2.18	2.18
30～34歳	100 (305)	9.8	16.7	55.4	11.8	0.7	0.3	5.2	1.76	1.90	1.83	1.90
総数	100 % (3,218)	5.1 %	7.5	57.0	24.0	1.7	0.9	3.9	2.13人	2.17	2.23	2.29
(男子)												
総数	100 % (3,420)	3.2 %	5.4	62.1	20.7	1.2	1.1	6.3	2.15人	2.23	2.30	2.34

注：結婚の意思がある者について。

図 -5-1 調査別にみた、平均希望・理想・予定子ども数



注：夫婦 - 理想子ども数・予定子ども数は、第11回出生動向調査(夫婦調査)より。

### 2) 年齢が高い未婚女子ほど、結婚後は早く子どもをもつことを希望している

未婚女子の希望出産時期については、若い年齢層では「結婚後しばらくたってから」と考える者が多いが、年齢が高くなるにつれ「結婚したらできるだけ早く欲しい」と思う者が増える。とくに30歳以上ではその割合が半数を超える。なお、5年前の第10回調査と比較すると「結婚後しばらくたってから」と考える者はそれほど増えていない。

表 -5-2 女子の年齢別希望出産時期別分布

年齢	総数	希望出産時期				参考：第10回調査(1992年)
		結婚したらできるだけ早くほしい	結婚後しばらくたってからにしたい	とくに考えていない	不詳	
18～19歳	100 % (490)	27.6%	44.7	27.1	0.6	46.4%
20～24歳	100 (1,461)	24.0	49.9	25.4	0.8	46.7
25～29歳	100 (716)	38.9	39.2	21.1	0.7	41.9
30～34歳	100 (259)	51.0	22.4	24.7	1.9	22.3
総数	100 % (2,929)	30.6%	44.0	24.6	0.8	42.7%

注：結婚の意思があり、結婚後に子どもを希望する者について。

### 3) 希望する子どもの男女児比、女の子を望む傾向が進展

子どもの性別組み合わせ(男女児比)に希望があるものについて、この割合を希望子ども数別にみると、とくに希望子ども数が1人または3人の場合に女兒を多く望む者が増えていることがわかる(表-5-3)。希望の男女児組み合わせ全体における男児数と女兒数の構成比でも、男女ともに女兒を望む傾向が少しずつ強まってきており(図-5-2)、とくに未婚女子では、今回の調査ではじめて女兒が男児を上回った。なお、女兒を望む傾向の進展は結婚後の夫婦でもみられている(夫婦調査)。

表 -5-3 男女別、希望子ども数別子どもの性別組み合わせ

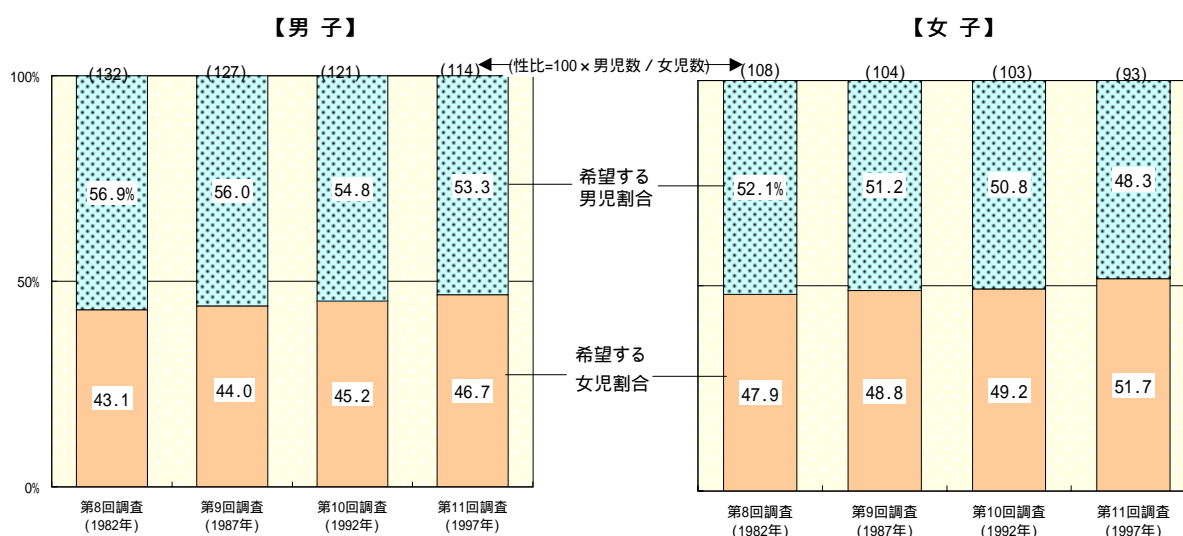
【男子】		第8回	第9回	第10回	第11回
希望子ども数	希望男女児組み合わせ	(1982年)	(1987年)	(1992年)	(1997年)
1人	男児1人・女兒0人	80.0%	69.8	58.2	51.2
	男児0人・女兒1人	20.0	30.2	41.8	48.8
2人	男児2人・女兒0人	7.9%	5.7	6.7	4.9
	男児1人・女兒1人	91.0	92.9	91.2	92.1
	男児0人・女兒2人	1.1	1.4	2.0	3.0
3人	男児3人・女兒0人	2.4%	2.9	3.1	4.1
	男児2人・女兒1人	80.2	77.9	72.3	69.9
	男児1人・女兒2人	16.8	18.6	23.2	24.9
	男児0人・女兒3人	0.6	0.6	1.3	1.1

【女子】		第8回	第9回	第10回	第11回
希望子ども数	希望男女児組み合わせ	(1982年)	(1987年)	(1992年)	(1997年)
1人	男児1人・女兒0人	59.6%	51.8	40.5	36.4
	男児0人・女兒1人	40.4	48.2	59.5	63.6
2人	男児2人・女兒0人	1.3%	2.9	3.9	1.9
	男児1人・女兒1人	94.0	91.4	90.6	89.8
	男児0人・女兒2人	4.7	5.7	5.6	8.3
3人	男児3人・女兒0人	0.9%	0.7	0.7	1.7
	男児2人・女兒1人	67.0	62.0	62.2	50.5
	男児1人・女兒2人	32.0	36.5	35.3	46.8
	男児0人・女兒3人	0.1	0.8	1.8	1.0

注：表 -5-2に同じ。希望子ども数が4人以上は省略。

図 -5-2 希望する子どもの性別組み合わせにみる男女児比



注：結婚後に子どもをもつことを希望する未婚者について、希望する子どもの性別組み合わせにおける男女児の構成比をあらわす。グラフ上部の( )内はその性別(女兒数100に対する男児数)。ちなみに夫婦調査の理想男女児組み合わせによる性別は第8回調査(105)、第9回調査(99)、第10回調査(91)、第11回調査(85)となっている。

## ．未婚者の生活スタイルと意識 - 現代の若者たちの横顔 -

### 1. 未婚者の生活スタイル

#### 1) 男子は仕事と趣味、女子は旅行・持ち物と交友に重点

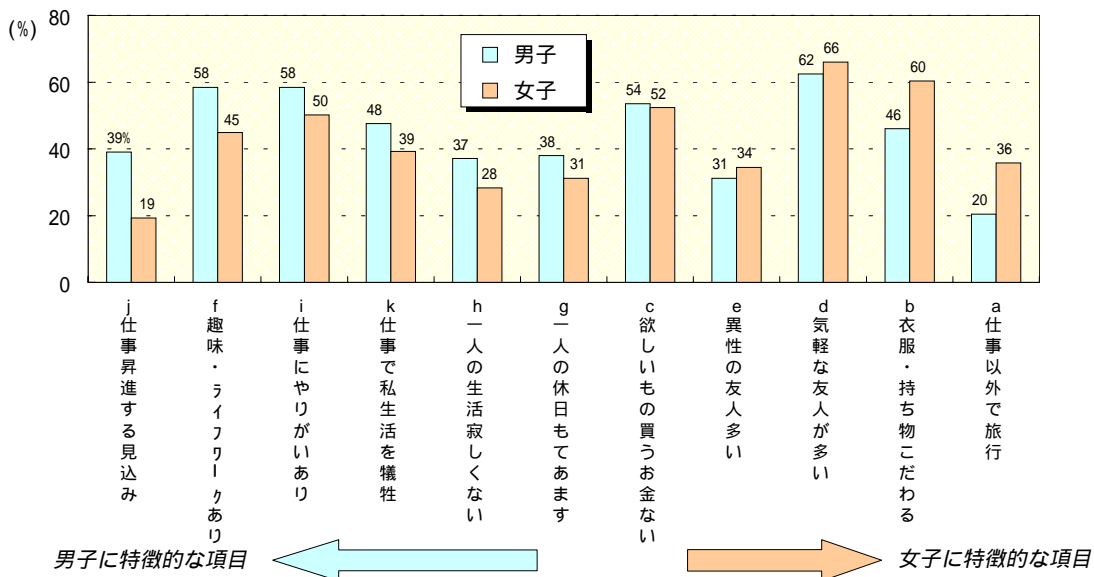
本調査では未婚者の生活スタイルを探るために、表 -1-1に示す a からkの内容が自分の生活スタイルにあてはまるかどうかをたずねている。男子は仕事や趣味について女子を上回っており(「j 仕事で昇進する見込み」男子39%、女子19%、「f 趣味やライフワークあり」男子58%、女子45%)、女子では旅行や持ち物に重点が置かれていることがわかる(「a 旅行よく出かける」男子20%、女子36%、「b 衣服や持ち物こだわる」男子46%、女子60%)。また交友関係(d,e)については女子の方がやや積極的な結果となった。その他、「g 一人の休日をもてあます」と答えた人は男子の方が女子よりも多いが、「h 一人の生活を続けること」に関しては、女子の方が寂しいと感じる人が多い。

表 -1-1 未婚男女の生活スタイル

生活スタイル	男子			女子		
	あてはまる	なめてはまらない	不詳	あてはまる	なめてはまらない	不詳
a 仕事以外で国内旅行や海外旅行によく出かける	20.4%	73.9	5.7	35.8%	60.0	4.2
b 衣服や持ち物にはこだわりが強い方だ	46.0	48.9	5.2	60.3	35.6	4.2
c 欲しいものを買ったり、好きなことに使えるお金が少ない	53.5	40.9	5.5	52.4	43.3	4.4
d 気軽に一緒に遊べる友人が多い	62.4	32.4	5.2	66.0	29.9	4.1
e 異性の友人は多い方だ	31.2	63.2	5.7	34.4	61.2	4.4
f 生き甲斐となるような趣味やライフワークを持っている	58.4	35.9	5.8	44.9	50.5	4.6
g 一人では休日や自由時間をもてあましてしまう	38.0	56.7	5.3	31.2	64.5	4.3
h 一人の生活を続けても寂しくないと思う	37.1	56.8	6.1	28.3	67.0	4.8
i 仕事にやりがいを感じている	58.4	32.3	9.3	50.2	41.7	8.1
j いまの仕事で昇進したり、事業で成功する見込みは高い	39.0	50.2	10.8	19.3	71.7	9.0
k 仕事のために、私生活を犠牲にすることがよくある	47.6	42.5	9.9	39.2	52.5	8.3

注：対象は設問a～hが18-34歳未婚者で、男子3,982、女子3,612。設問i,j,kは有職者のみに対する設問であり男子2,885、女子2,600である。表中の「あてはまる」は「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合計した回答割合。「あてはまらない」についても同様。

図 -1-1 男女別、生活スタイル(「あてはまる」と答えた人の割合)



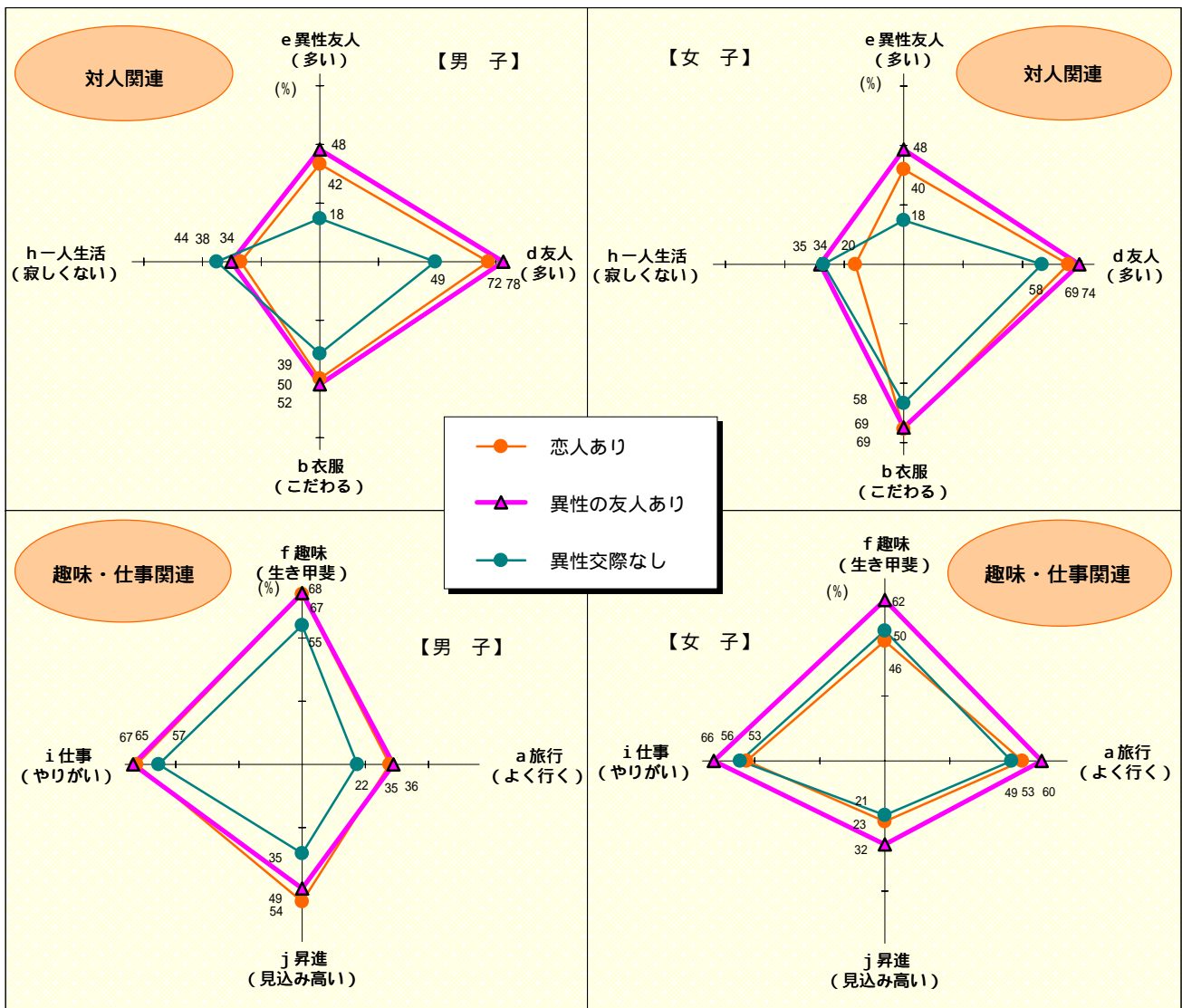
2) 男子では異性交際と仕事・趣味が両立、女子では恋人のいる人よりも「男友だち派」が活動的

生活スタイルは異性との交際とどのように関連しているだろうか。25歳以上35歳未満の未婚者のうち、婚約者・恋人がいる人、友人として交際している異性がいる人、交際している異性がない人、について生活スタイルの特徴を調べてみた。図 -1-2中の数値は各設問に「あてはまる」と回答した人の割合を示す。

対人関連項目(b,d,e,h)では、男女とも異性の交際相手がいる人、とくに異性の友人がいる人の方が交友関係(d,e)や衣服・持ち物(b)に対して積極的であることが伺える。また恋人がいる女子で、一人の生活を寂しく思う人がやや多い(h)。

仕事・趣味関連項目(a,f,i,j)では、男女で大きな差が見られる。男子では、恋人、友人に関わらず異性の交際相手がいる人が趣味や仕事に関して積極的であるのに対し、女子では、友人としての交際相手がいる人の方が、恋人がいる人よりも趣味や仕事について積極的なスタイルが多いことがわかった。

図 -1-2 交際状況別、生活スタイル（「あてはまる」と答えた人の割合）



注：対象は25-34歳の未婚者で男子1,678、女子1,252(i,jのみ男子1,546、女子1,111)。交際状況は「恋人あり」(恋人・婚約者として交際している異性がいる)男子26.3%、女子35.0%、「異性の友人あり」(友人として交際している異性がいる)男子15.9%、女子15.3%、「異性交際なし」(交際している異性はいない)男子48.7%、女子42.3%。

< 対人関連項目 >

- e 異性の友人は多い方だ
- d 気軽に一緒に遊べる友人が多い
- b 衣服や持ち物にはこだわりの強い方だ
- h 一人の生活を続けても寂しくないと思う

< 趣味・仕事関連項目 >

- f 生き甲斐となるような趣味やライフワークを持っている
- a 仕事以外で国内旅行や海外旅行によく出かける
- j いまの仕事で昇進したり、事業で成功する見込みは高い
- i 仕事にやりがいを感じている

## 2. 結婚・家族に関する意識

### 1) 伝統的結婚観に対する否定的傾向が強まる一方で、いぜん存在する男女の意識格差

未婚男女に、表 -2-1に示すaからiの男女関係、結婚、家族などに対する考え方について賛成か反対かをたずねたところ、未婚者の7割以上（男子78%、女子72%）が「g 結婚したら子どもは持つべき」に賛成、6割（男子69%、女子59%）が「b 一緒に暮らすなら結婚すべき」に賛成と回答しており、従来からの家族形成を支持している。

しかし「a 生涯独身は望ましくない」と考える女子は49%と、今回5割を下回り、生涯独身を容認する傾向が強まった。5年前の前回調査と比較すると「b 一緒に暮らすなら結婚すべき（同棲忌避）」、「f 夫は仕事、妻は家庭」に対する否定的意見が増加するなど(bに反対 男子8%増、女子12%増、fに反対 男子15%増、女子18%増)、全体的にも伝統的結婚観に対して否定的態度を示す人が増加し、夫婦や家庭よりも個人を重視する結婚観を受け入れる傾向が強まったといえる(図 -2-1)。同様の傾向は夫婦調査による妻の意識についても観測された。

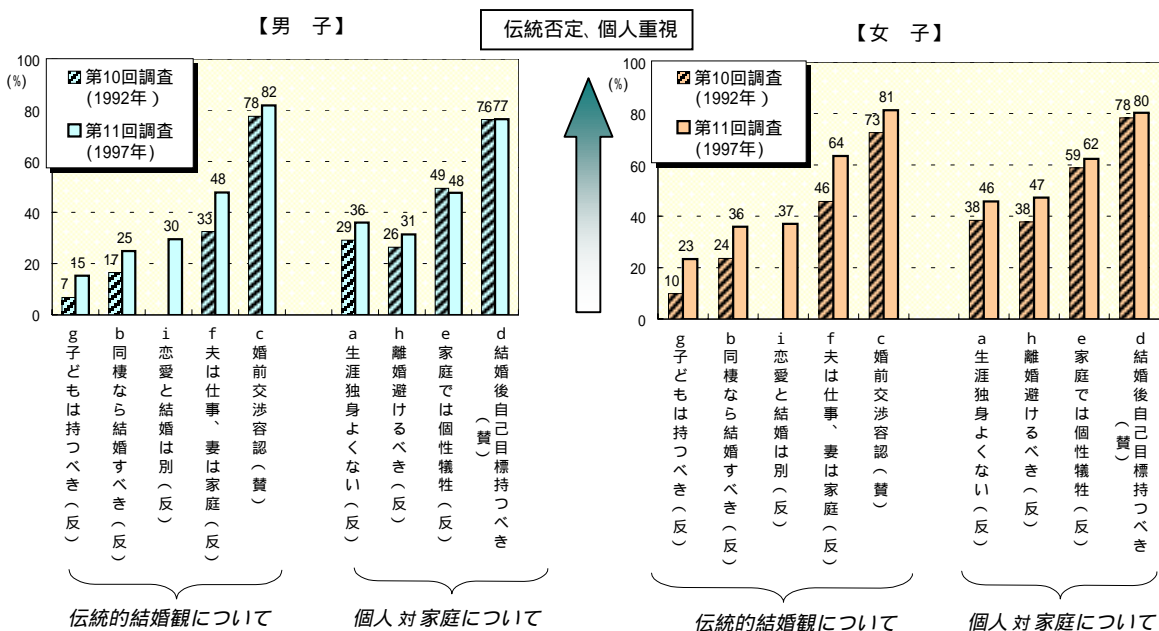
また男女別にみると未婚女子でその傾向が顕著であり、その結果、男女の格差は広がった。

表 -2-1 結婚・家族に関する未婚男女の考え方

結婚・家族に関する考え方	男子			女子		
	賛成	反対	不詳	賛成	反対	不詳
a 生涯を独身で過ごすというの、望ましい生き方ではない	57.7%	36.0	6.2	49.1%	45.7	5.2
b 男女と一緒に暮らすなら結婚すべきである	69.0	24.9	6.0	59.3	35.9	4.8
c 結婚前の男女でも愛情があるなら性交渉を持ってかまわない	81.8	11.7	6.6	81.3	13.2	5.5
d 結婚しても、人生には結婚相手や家族とは別の自分だけの目標を持つべきである	76.5	16.7	6.8	80.3	14.2	5.5
e 結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だ	45.9	47.7	6.4	32.6	62.3	5.1
f 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	45.8	47.8	6.4	31.5	63.5	5.0
g 結婚したら、子どもは持つべきだ	77.9	15.3	6.8	71.5	23.3	5.2
h いったん結婚したら、性格の不一致くらいで別れるべきではない	62.0	31.4	6.7	47.3	47.3	5.3
i 恋愛と結婚は別である	63.9	29.5	6.6	57.9	37.0	5.2

注：対象は18-34歳の未婚者で、男子3,982、女子3,612。表中の「賛成」は「まったく賛成」「どちらかといえば賛成」を合計した回答割合。「反対」についても同様。

図 -2-1 伝統否定、個人重視の回答者の割合(前回調査との比較)

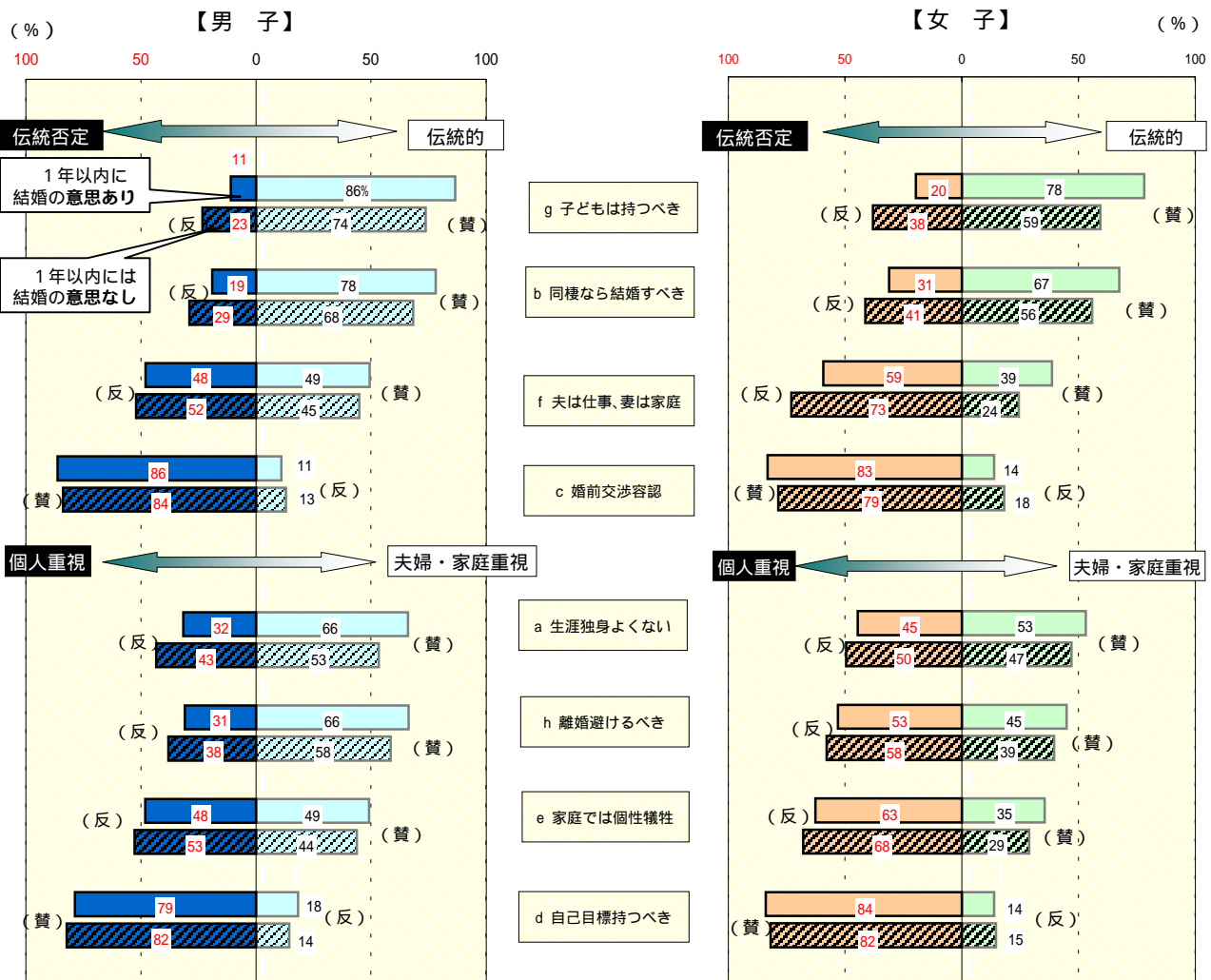


注：設問の内容によって、賛成者の割合(賛)または反対者の割合(反)が示されているが、割合(%)が高いほど、伝統的結婚観を否定する傾向が強いことを示す。なお、「i 恋愛と結婚は別」は第11回調査のみ。

## 2) 結婚消極派ほど伝統的家族観に否定的であり、家庭よりも個人を重視する傾向

結婚・家族に関する考え方は、結婚の意欲とどのように関係しているのだろうか。25～34歳の未婚者のうち、1年以内に結婚する意思がある人と、意思がない人（「生涯結婚意思なし」も含む）で、家族意識の違いを調べた（図 -2-2）。「c 婚前交渉の容認」を除いては、結婚の「意思なし」の方が、伝統的家族観に否定的で、かつ夫婦や家庭よりも個人を重視する傾向があることがわかる。とくに女子では、「g 結婚したら子ども持つべき」と考える人が、「結婚意思あり」78%、「意思なし」59%、「f 夫は仕事、妻は家庭」と考える人も「結婚意思あり」39%、「意思なし」24%など差が見られる。また男女とも「結婚の意思なし」の方が、同棲を容認する傾向(b)が強い。

図 -2-2 結婚の意思別にみた、伝統否定傾向と個人重視傾向  
（棒グラフ上段が1年以内の結婚について「意思あり」、下段が「意思なし」）



注：対象は25-34歳の未婚者で男子1,678、女子1,252（「意思あり」男子52.9%、女子64.5%、「意思なし」男子37.7%、女子26.9%）。図中の賛成（賛）は「まったく賛成」「どちらかといえば賛成」を合計した割合(%)。反対（反）についても同様。結婚の意思については、「用語の解説」（結婚意思の段階）を参照のこと。

### < 伝統的結婚観に関する設問 >

- g 結婚したら、子どもは持つべきだ
- b 男女と一緒に暮らすなら結婚すべきである
- f 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ
- c 結婚前の男女でも愛情があるなら性交渉を持ってかまわない

### < 個人対家庭に関する設問 >

- a 生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない
- h いったん結婚したら、性格の不一致くらいで別れるべきではない
- e 結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だ
- d 結婚しても、人生には結婚相手や家族とは別の自分だけの目標を持つべきである

# 用語の解説

## 結婚からの意識距離（結婚意思の段階）

結婚の意欲を測る複数の設問から未婚者の結婚意欲の段階を参考表に示すように6つの段階に分類することができる。この各段階に結婚に近い順に数値を与えたものをここでは結婚からの意識距離と呼ぶことにする（「結婚年齢重視派」と「理想相手追求派」では希望結婚年齢の比較などから前者の方が結婚に近いことがわかっている）。さまざまなグループごとにこの平均値を比較することによって、グループ間の結婚の意欲の程度を比較することができると考えられる。図 -2-2においては、1～3が「意思あり」、4～6が「意思なし」である。

参考表 年齢別にみた未婚者の結婚の意識段階別構成比および平均値

### 【男子】

年 齢	総 数 (標本数)	「一年以内に結婚したい」 (距離 = 1)								（平均値） 結婚からの意識距離	（参考） 結婚からの意識距離 (平均値)	
		「理想の相手なら(一年以内に)結婚してもよい」		「まだ結婚するつもりはない」							第 10 回 調査	第 9 回 調査
		結婚年齢重視派 (= 2)	理想相手追求派 (= 3)	結婚年齢重視派 (= 4)	理想相手追求派 (= 5)	「一生結婚するつもりはない」 (= 6)		不 詳				
18 ~ 19 歳	100% ( 621)	1.3 %	5.6	9.0	34.0	34.5	7.2	8.4	4.27	4.34	4.28	
20 ~ 24 歳	100 (1,683)	5.1	9.9	11.7	30.4	28.0	5.5	9.4	3.91	3.92	3.82	
25 ~ 29 歳	100 (1,149)	13.0	15.8	19.8	18.6	18.5	5.5	9.0	3.33	3.13	2.89	
30 ~ 34 歳	100 ( 529)	12.5	18.0	30.8	5.5	11.3	9.6	12.3	3.16	2.81	2.77	
総数(18-34歳)	100% (3,982)	7.8 %	12.0	16.1	24.2	24.0	6.3	9.5	3.70	3.68	3.54	

### 【女子】

年 齢	総 数 (標本数)	「一年以内に結婚したい」 (距離 = 1)								（平均値） 結婚からの意識距離	（参考） 結婚からの意識距離 (平均値)	
		「理想の相手なら(一年以内に)結婚してもよい」		「まだ結婚するつもりはない」							第 10 回 調査	第 9 回 調査
		結婚年齢重視派 (= 2)	理想相手追求派 (= 3)	結婚年齢重視派 (= 4)	理想相手追求派 (= 5)	「一生結婚するつもりはない」 (= 6)		不 詳				
18 ~ 19 歳	100% ( 606)	1.8 %	7.3	10.1	30.5	36.6	6.1	7.6	4.20	4.06	3.97	
20 ~ 24 歳	100 (1,754)	8.0	14.2	18.7	22.8	25.8	4.1	6.4	3.60	3.59	3.44	
25 ~ 29 歳	100 ( 908)	14.2	16.4	31.4	8.8	14.5	5.4	9.3	3.10	2.88	2.78	
30 ~ 34 歳	100 ( 344)	14.2	11.0	44.8	3.5	12.5	5.5	8.4	3.06	3.26	3.29	
総数(18-34歳)	100% (3,612)	9.1 %	13.3	22.9	18.7	23.5	4.9	7.5	3.53	3.54	3.45	

注：結婚年齢重視派および理想相手追求派とは、それぞれ「ある程度の年齢までには結婚するつもり」、「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」と回答したグループ。

## 女性のライフコース

女性のライフコースとは、一人の女性が送る人生のタイプのことで、とくに仕事、結婚、子育ての組み合わせにおける主要な5つのタイプを以下のように設定した。本調査では、未婚女子には自身における理想・予定のライフコースを、未婚男子には女性に望むライフコースをたずねている。

- 非婚就業コース : 結婚せず、仕事を一生続ける
- DINKSコース : 結婚するが子どもは持たず、仕事を一生続ける
- 両立コース : 結婚し子どもを持つが、仕事も一生続ける
- 再就職コース : 結婚し子どもを持つが、結婚出産の時期にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ
- 専業主婦コース : 結婚して仕事を持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない